

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390200410		
法人名	株式会社大洲産業		
事業所名	グループホーム清花		
所在地	熊本県八代市郡築1番町103-9		
自己評価作成日	令和3年4月5日	評価結果市町村受理日	令和3年7月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年4月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が居心地良く暮らせる。これまでの生活を維持し続けられる。そのためにはどのような支援が必要なのか、日々考えながら、スタッフで話し合いながら支援しています。</li> <li>・利用者様のしたいことを引き出し、可能な限り対応できるようにしています。</li> <li>・母体が食に関わる会社である為、食にはこだわり、食材は国産品を使用し、旬の食材を使用することを心がけています。食事が利用者様の楽しみになるよう、献立づくりに気をつけています。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>法人3か所目の地域密着型事業所として昨年5月に開所した新しいホームである。スタートにあたっては先に開所したホームから経験を重ねた職員が異動している。職員は経験を生かしながらも、新天地で新たな入居者とともに日々を重ねたいとしている。開所時から自治会に加入し、地域情報を得ながらホーム運営に反映させており、コロナ終息後の新たな展開が期待されることである。面会や外出が制限される中ではあるが、管理者は入居者の日頃の様子や誕生日の表情を家族に送付し、運営推進会議の情報とともに、職員紹介を発信しホームの現状をわかりやすく伝えている。入居後も我が家に週末の帰省を支えたり、好きな畑仕事やピアノ演奏、食材の下ごしらえなどに腕を振るう等これまでの生活背景が活かされている。ホームの取組が季節を一巡し、馴染みの職員による新たな展開が期待される。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	仕事に就く前に理念の確認ができるように、更衣室日年を掲示し、理念を念頭に日々のケアに当たっている。開設して1年経過し、理念の解釈にずれが生じてきている為、全職員での話し合いが必要。	令和2年5月の開所より1年を迎えようとしている。法人3か所目となるホームの開所にあたっては、先に運営を開始している2事業所から経験を積んだ職員などが入りケアにあつたている。職員は新たな地域、新たな入居者との関わりに、これまでのキャリアを反映させながらも、新天地での新たな関係性に戸惑いながら努力を続けている。	職員は法人理念である“共存共栄”に込められた意味を改めて勉強会で考え、自身の行動やホーム全体の取組を通して振り返っている。新年度は職員が取り組みやすいホーム独自の介護理念や月目標等の設定も検討いただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ下の中での開設で、いろいろなことが制限される中、地域とのつながりを継続することの難しさはあったが、ご近所住民の方々との雑談や、地域の清掃活動への参加などできる範囲で交流を図ってきた。	ホームのスタートにあたり、地区長より様々な情報が寄せられている。自治会の加入により会費の納入や回覧版のやり取りを通じ、近隣者と談笑し、地区の水路掃除に参加しながら、人々と交流する機会を持っている。今後、ホームの持てる力を地域に還元していきたいとしている。	地区では自治会とは別に地域包括などが参加する会合が開催されており、(現在中止)コロナ終息後の新たな交流の機会として期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は、運営推進会議などの開催も制限され、地域の方々が、ホームに来る機会すら得られない状況ではあったが、職員は可能な限り地域の方々と話し、ホームの様子を発信していた。今後は更に地域住民の方の力になれるようにしたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ下で皆様をお招きすることが出来ていないが、会議資料を配付し状況を報告している。また、家族様に連絡した時などに、ご要望やご意見などないか伺うようにしている。	6月に初回の運営推進会議を開催している。今年度はコロナ禍により通常開催に代わり、参加者への資料送付にて書面審議としており、会議の意義や職員紹介なども伝えている。入居者の日々の様子を載せた写真資料や議事録を送付して、関係者にわかりやすく情報を発信している。	議事録には行事や研修、事故報告の他、次回開催までの予定を紹介しているが、身体拘束の研修内容も同時に伝える事でホームの取組を発信していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の資料を必ず提出し、ホームの現状を報告している。運営などについてわからないことがあれば相談すると、アドバイスして頂き連携確保できている。	行政からのコロナ感染症の情報を運営に反映し、感染防止に努めている。管理者は事故報告について、運営推進会議資料で発信するとともに、報告書提出に役所に出向き、担当者で直接会話しながら、良好な関係を築くようにしている。認定調査には担当職員や時には家族が同席しながら、入居者の現状を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会を通じ、どのような行為が身体拘束に当たるか、身体拘束による弊害などについて勉強している。また、事例を通じみんなで意見を出し合い、自分だったらと自分の立場で考えることを意識している。	身体拘束についてホーム内研修を実施している。職員は拘束にあたる行為について認識を深め、事例をもとに自身に置き換えて、検討する機会を持っている。管理者は職員のメンタルケアの重要性を感じており、今後の取組を期待したい。	離床センサーやセンサーマットについては、家族の了承のもと利用を開始しているが、開始時の説明だけでなく、定期的な報告が必要と思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会で虐待についても勉強会をしている。虐待では？不適切なケアでは？と感じたケアはスタッフ間で共通し、個人ワーク等で振り返りを行い見過ごす事が無いようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については成年後見制度などを活用する利用者様がいらっしゃらなかった為、学びの機会を作れなかったが、今後は制度について勉強していく必要あり。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約時は重要事項説明書・契約書を読み、確認しながら行っている。介護保険改正時にも都度説明し理解して頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会が十分に行えない為、ホームでのご利用者さんの状態報告を密にするように心掛けた。また、定期的にご家族に連絡し、ご意見・要望などをお尋ねし、可能な限り対応するようにしている。	コロナ禍における社会情勢を見ながら、窓越し面会や県内在住の家族へ30分以内の直接面会に応じている。面会設定に苦慮する中、入居者の誕生日の写真や運営推進会議資料に職員の顔写真を添付して送付し、家族に安心してもらうよう努めている。家族からは感謝の言葉が寄せられているが、入居者からは管理者も知らない職員の嬉しい一面を伝えられるなど、ほのぼのとした関わりが見られる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や要望を言いやすい環境作り心にかけている。中には聞いてもらえないと感じている職員もいる為、今後は定期的に面談等を行い、反映していく。	職員は普段から業務改善やケア向上に繋がる意見を発言しており、内容を検討しながら運営に反映させている。管理者は職員の面談とともに代表者との話し合いの機会を持ちたいとしており、実現が期待される。また、話し合いについては記録の必要性も検討したい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は、職員の働きやすい環境作りを努め、職員の体調に応じて勤務時間を調整したり、職員のモチベーションを高める為早出・遅出には手当を付けたりと就業環境にはとても気を使ってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会へ積極的に参加させたもらっている。また、資格取得などにも協力的でその為の教材費や研修費用などの支援や、勤務時間内での研修参加など職員を育てる取り組みが十分になされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列の他事業所と意見交換をしたり、ケアについての相談をしたり同業者と交流する機会は確保できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期相談の時から、利用者・家族の不安や困りごとをしっかりと聞き取る為に、時間に余裕を持ち、静かなところでお話を聞くようにしている。聞き取った情報は職員と共有し入居してからの関係づくりに役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入の段階も利用者・家族の話をしっかり聞き、どうすればホームで安心して過して頂けるのか、一緒に考えていくようにしている。また、ホームでの様子を伝えたりし、より良い方法を一緒に考えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で得た情報から、利用者にとって最善の支援を検討している。自分達だけでは判断できないときは、他の事業所や地域包括支援センターなどにも相談しながら検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護するだけの一方的な関係にならないように常に気にかけてケアに当たっている。利用者の気持ちを大事に、職員の気持ちも大事にしながら、ともに暮らしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ下家族の面会が制限される中、本人との絆を持続することが難しかったが、お便りで利用者の様子を発信したり定期的に家族ぬ連絡し状態説明をしながら対応した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と協力しながら、可能な限りなじみの場所に出向くようにしている。また、これまで使われていた馴染みの品物などは、ホームでもできるだけ使って頂く様にお声掛けしている。	ホームでは入居者のこれまでの生活背景や人となりを尊重しており、菜園での野菜や花作りには入居者の特技が活かされ、新聞を読まれたりピアノをひかれるなどこれまでの習慣や趣味も日々の生活の中で披露されている。好きな飲酒については、家族の意向を確認し、職員と検討しながら量や時間帯を設定して楽しみの一つとして支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や生活リズム、認知症状の程度なども考えながら、利用者同士のトラブルがなく楽しく、居心地が良い空間になるように配慮しながら支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、可能な限り面会に行ったり、ご家族にお手紙を送ったりなどし、何かあったらいつでも相談できる関係づくりを努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なにがともあれ、なずは本人の気持ちの確認を合い言葉に、職員はこれを念頭にケアに当たっています。自分の気持ちの表出が難しい利用者にも相手の立場に立って考えるようにしている。	入居者の意向を最優先とし、普段の会話から思いを引き出すようにしているが、表現が困難な方へはホームでの生活の様子や、家族の聞き取りから推し量っている。職員を入居者の担当制としており、担当者の気づきも支援に反映されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人から入居前の生活の様子や生活歴を聞き取りホームでのケアに生かしている。また、馴染みの場所の馴染みの方からのお話もケアに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートに基づいて情報収集し、現状把握に努めている。また、日々のケアでの気付きは記録に残し、他のスタッフと共有しないといけない内容などは印をつけ対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時担当者会議を行い、本人と家族の希望を伺いプランを立案している。また、介護計画は毎日評価し、達成できない内容については、カンファレンスでスタッフと話し合い現状に即したプランになっている。	5月の開所後に順次入居されており、ケアマネジャーは本人・家族への聞き取りや、入居前の情報を参考にしたうえで、暫定でプランを作成している。その後の日々の暮らしぶりから、アセスメントシートをもとに身体的状況やADL、コミュニケーション能力などの入居者の現状を把握している。カンファレンスで対応や改善策を検討し、本プランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者のいつもと違う様子については、必ず記録に残し、他のスタッフと共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り利用者の『したい』に応えられるように努めている。外出支援や好みに応じた食事の提供など、工夫し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族と協力して、入居しても可能な限りこれまでの生活スタイルを続けられるように、楽しみを奪わない様に、家族・スタッフでどうしたらできるのかアイデアを出しながら対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居してもこれまでの主治医に引き続き診察して頂ける様にしている。日々のケアの中で少しの変化もスタッフ間で共有し必要時家族の相談・対応検討するようにしている。	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援しており、家族による定期受診や往診が行われている。家族の対応が困難な場合や、緊急時にはホームで支援している。受診結果を共有し、家族からの相談に応じながら適切な医療が受けられるようにしている。看護・介護双方の職員の連携により、家族への状態報告や、異常や変化を見逃さず早めの対応に努めていることは、家族の安心にも繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名常勤で雇用することにより、日々の状態観察や急変時などもいち早く対応できている。介護士との協働により小さな変化も見逃さず、早めの対応ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際ホームでの様子や、ケアで気を付けて欲しいことなどを病院側に伝え、可能な限りホームと同じような生活が送れる様にしている。早期退院できるように状態確認の為に定期的に面会に行くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時書面で重度化した場合の指針の説明や看取りについての説明をしている。定期的に事前指示書などの記入をお願いし、日頃より終末期のケアについて家族とともに考えるようにしている。	入居時に指針をもとに看取りについての説明を行い、その時点での思いや意向を聞き取り、プラン変更時などに確認を行い指示書への記入を依頼している。殆どの家族が苦痛を与える治療などは望まれず、ホームでの穏やかな最終を話されており、今後も出来得る最良の支援に努めていきたいとしている。	近隣事業所との合同研修会が中止となっており、今後は重度化・終末期に関するホーム独自の研修の機会も必要と思われる。また、入居者のペースを大切にしたい穏やかな日常生活が今後も変わらず展開されていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について定期的に研修会を行い、その時に慌てない様に訓練している。24時間オンコール体制をとり、いつでも相談出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回、日中・夜間 想定で行うようにしている。また、災害時の訓練も行い、いざという時に備えている。また、地域の消防団との協力体制も取れている。	昼・夜を想定しながら避難訓練を実施している。日々の安全チェックは遅出職員が行い、部屋のコンセントの埃なども掃除をする際確認している。備蓄についてはレトルトご飯をはじめとして確保しているが、備品については不十分としている。地域の消防団との協力体制が取れている事は心強く思われる。	地震からの避難など工夫しながら取り組んでおり、今後も火災と自然災害についても風化させないような継続した取組が期待される。また、不十分としている備品の確保や、コロナ終息後は、運営推進会議や家族の参加協力を得た訓練の実施に期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思確認を徹底し、どうしたいのか知ることを大切にしている。職員の何気ない言葉や行動が利用者を不快な思いにさせてしまうことがあることを常に念頭におき、職員間でも声を掛け合いながら対応している。	本人の意思や要望などを知ることが重要であり個々に応じて普段の会話や思いを察しながら支援に活かすこととしている。職員の発する一言や行動が、入居者の尊厳やホーム全体の雰囲気損なう事を管理者は日頃から職員へ伝えている。呼称は苗字や下の名前など、家族に確認しながら決定している。同姓介助については、特に入浴支援において対応している。	職員自身が大切な環境であり、引き続き入居者の安心に繋がるような言葉や対応に努めていかれる事を期待したい。外部の来訪を控えている現状であり、気づきなどを受ける機会は少ないことから、職員同士で率直に注意し合うことが必要と思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように、日頃より意識して声掛けし、表情や行動などからも気持ちを読み取る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活パターンを把握し、過しやすいペースで一日が送れる様に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝からの着替えや好みの洋服など、本人の意思を確認しながら準備している。また、お出かけの時はお洒落着を着用したり、散髪なども本人の希望に沿ってカットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにしている方が多い為、献立は利用者と一緒を考えなるべく希望に添えるような食事にしている。国産品にこだわり、少量ずつだけ品数多い食事を心掛けている。	食材にこだわった品数を多くした手作り料理の提供は、法人全体で実施しており、入居者の楽しみや職員にとっても活力になっている。菜園には季節の野菜の管理を入居者の出番として支援しており、訪問当日もふん草やジャガイモなどがほこっていた。苦手な食材には代替え食を準備しており、家族の安心にも繋がっている。また、嚥下状態に応じてミキサーやキザミ食で提供している。現在は感染症への対応から、職員と一緒に食事を摂っていないが、「早よ～こっちに来んね！」と、以前のような食事光景を待たれていることが伝わってくる。	米や精肉、鮮魚をはじめ専門店からの食材購入により、手作りの料理が今後も継続されることを期待したい。また、入居者による野菜の皮むきや根切りなどの出番は食への楽しみを増しており、変わらぬ取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事量の把握に努め、排便チェックも行い健康管理に努めている。また、毎朝ヨーグルトを摂取することで自然排便を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状態にあった歯ブラシや歯間ブラシを使いケアを行っている。また、定期的に訪問歯科の診察を受けることで口腔内の異常の早期発見に繋がっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握と、排泄前のサインを見逃さない様に気を付け、トイレでの排泄を目指している。	全員、昼・夜トイレで排泄をされており、現在ポータブルトイレを使用される方はおられない。布・リハビリパンツにパットを併用される方が殆どであるが、布パンツのみで過ごされる方も2名おられ、継続できるよう見守りなど必要に応じた支援に努めている。トイレ内は換気や清潔(床のチェックを含め)を保ち、気持ちよく利用できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく事前は排便に繋がられる様に、毎朝のヨーグルト摂取m定期的な運動、腹部マッサージなどを行いながら、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り本人の入浴時間や入浴日に対応している。入浴を楽しめるように、入浴剤を使用したり、季節に合わせて菖蒲湯やゆず湯等を行って利している。	週3回、午後を中心に入浴支援を実施している。日によって拒否される方もおられ、時間をずらし声を掛けたり翌日に変更するなど、本人の希望に沿うよう努めている。機械浴を備えているが、現在は使用される方はおられず、一般浴でゆっくりと見守りや介助により入られている。入浴剤の使用や季節湯(菖蒲・柚子)も目先を変え楽しんでもらえるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて、必要な時には休息が取れる様にしている。冬の寒い時期には足元があったまる様に湯たんぽを準備し、適度な運動を取り入れ安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事表ファイルを作成し、誰がどんな薬を服用しているか誰でもわかる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が楽しみ、生きがいを感じられる様に役割を与え、やりがいを持って暮らしている。年2回はバス旅行を行い、利用者・家族・職員で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を聞きながら、出かけたところへは、可能な限り対応できるようにしている。家族から馴染みの場所等も聞き、足を運んでいる。	敷地内は安全に散歩が出来る環境であり、訪問当日も日課とされている外気浴を楽しまれる入居者の姿が見られた。車を使った外出では感染症対策を施し、さくらやボタンなどの花見や、八代港などへのドライブに出かけている。家族の協力により週末は自宅に帰り過ごす方や、コロナが一旦落ち着いた時期は、カット外出も行われている。また、家族との定期受診も外出の機会となっており、身支度をされて待たれる表情からも心待ちにされていることが伝わってきた。	居室で旅番組のビデオを楽しまれる方もおられ、今後はリビングに集い外出気分を味わえる、ビデオ・DVD、YouTube視聴などの企画も良いと思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を持ち、支払いも自分でできるが、計算は困難な為、必要時見守り等手洗い対応している。自分で買い物に行けない方は、職員が買い物に行き、頼まれたものを買ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年はコロナで面会制限があり、なかなか思うように面会もできなかったため、特に気にかけて、近況報告や顔写真入りのお手紙など送付し支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには数多くのソファを配置し、どこでもゆっくり座って過ごせるようにしている。また、職員の声やテレビの音量も注意しながら、居心地の良い空間づくりに努めている。	食堂を兼ねたリビングには3か所にテーブルを配置し、身体状況や相性などを考慮して席を決めている。広く圧迫感のない造りであり、廊下も歩行訓練に活かされたり、体操等のレクリエーション時の声が館内に広がっている。職員は方言を交えながら入居者との時間を大切にしており、安心して過ごされていることが窺えた。リビングを中心に掲示されている壁面には職員の工夫が活かされ、入居者と一緒に作成することで、会話のきっかけにも繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やリビング、廊下など一人になり、ゆっくり過ごす事ができる様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が居心地の良い空間になる様に、自宅で使用していた家具や写真などの持参をお願いし、可能な限り自宅と同じような雰囲気のある居室になる様に支援している。	「いちご」や「リンゴ」「びわ」「もも」など、入居者に馴染みのある季節の果物の絵が表札として付けられている。開き戸にはクロゼットが備わっており、衣類を下げたり、収納ケースも中に置かれスッキリとした居室となっている。テレビを持ち込まれた方の中には、BSの通販番組を見られる方や、旅行に行けないことから、旅番組を録画して楽しめるなど、自宅に居るような時間を持たれている。衣替えは現在、家族に持参してもらい職員が実施しており、不足の品は随時伝えている。	家族の協力も得ながら個々に応じて安心して過ごせる環境が作られており、継続した取組に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全の為に何もかも失ってしまうのではなく、自分の力でできることはして頂きながら、できること・出来ないことを把握し対応している。		